

すべての子どもが学ぶ喜びをもつ授業づくり

～「つながる」「わかる」「できる」子どもの育成を目指して～

新潟市立浜浦小学校

1 学校の概要

本校（児童数 412 人）は、昭和 10 年創立で今年度は 85 周年となる。校区は、閑静な住宅街を中心に、信濃川、関屋分水、日本海の海岸、ネムの森（学校裏の松林）があり、自然に恵まれ、愛鳥モデル校にも指定されている。地域・保護者の方々は、教育活動に大変協力的で、学校を支えてくれている。

子ども同士が互いに支え合い、助け合い、かかわり合いながら、課題を解決する充実感を大切にした授業づくりを推進している。

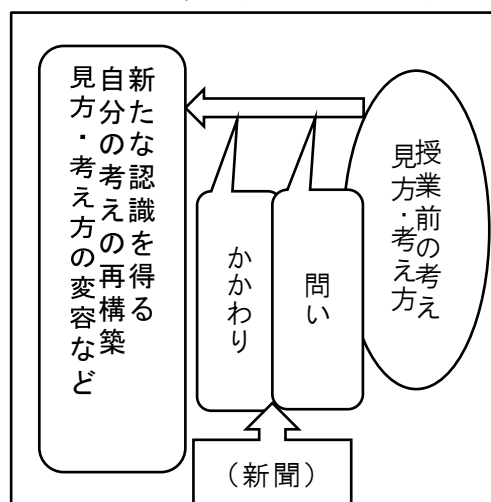
2 N I E 実践のねらい

本校の児童は、学習活動に対して活発であり、学習意欲も高い。また、問題解決に向けて、見通しをもって取り組む姿も見られる。全国学力・学習状況調査や C R T 学力調査の結果からは、高い学力があることが認められる。

その反面、自分の考えを伝えたいという思いが先行し、友達の意見に耳を傾けることが苦手な児童も見られる。また、友達の考えから自分の考えのよさを見出したり、自分の考えと比較したりして深めたりする力も十分とは言えない。さらに、問題解決型の学習においては、参加意欲や参加の仕方に個人差が見られる。そのため、学力的な双極化の傾向が現れ始めている。

そこで、「すべての子どもが学ぶ喜びをもつ授業づくり」を研究主題に設定し、「問い」「かかわり」「振り返り作文」を 1 単位時間の枠組みとして授業実践を行った。特に「かかわり」を重視し、子どもが「かかわり」のある授業を通して、自分の考えに新たな認識を加えたり、見方・考え方を変容したり、他者との比較から自分の考えを再構築したりするなど、自分の考えの質的な変容を目指した。

新聞は、そのような授業を目指すための手立ての一つと考えて位置付けている。「問い」をもつ場面、「問い」を解決するための見通しをもつ場面、「かかわり」の場面など、様々な場面での活用が考えられる。指定校 1 年目の今年度は、どのような場面で、どのように新聞を活用すると、授業のねらいを達成し、子どもが自分の考えを深めることができるかを、検証をすることとした。



3 本年度の実践の概要

(1) 新聞に親しむための活動

① 浜浦N I Eコーナーの設置

2階と3階のホールにN I Eコーナーを設置し、新聞各紙を常設し、いつでも誰でも読める環境を整備した。また、N I Eコーナーには、子どもの投書などの浜浦小学校に関連した記事、浜浦地区に関連した記事なども掲示した。

② 新聞記事感想文コンクールへの応募

5・6年生全員が夏休みの課題として新聞記事感想文コンクールに挑戦している。夏休み前には、過去の優秀作品を参考にしながら、記事の選び方、感想文の書き方などを指導している。この取組は、10年以上続いており、団体賞も多く受賞している。

(2) 授業の中での新聞活用

① 職員研修

夏休み中に、新潟県N I Eアドバイザー古井丸裕三様（新潟市立巻北小学校教頭）を講師としてお招きして、N I Eに関する職員研修を行った。授業の中で、どのように新聞を活用すると効果的なのか、どのような視点で新聞記事を見ていくとよいか、新聞を子どもたちに提示する際のポイントなど、実践例を交えながら指導をしていただいた。

② 新聞を活用した授業

校内研修グループの中に「N I Eグループ」を設置し、N I Eグループを中心に、様々な教科で新聞を活用した授業を実践した。研究授業として実施した実践は以下のとおりである。

日付	学年	教科	単元名等
6月19日	3	道徳	Negiccoの秘訣／水やり係
7月11日	4	社会	健康なまちづくり
7月11日	6	社会	全国統一への動き（豊臣秀吉）
9月25日	2	道徳	クラスの大へんしん／楽しい学級
10月17日	1	生活	いきものだいすき（いきもののさがし）
11月13日	あおぞら	生活単元	新聞ってどんなもの？
11月27日	5	道徳	撮影、観光マナー守って ／よりよいきまりとは
12月6日	6	社会	暮らしの中の政治 すべての人が幸せに生きるために
12月11日	4	社会	県の地図をひろげて

4 実践例

<実践例 1>

(1) 2年 特別な教科道徳

題材名 クラスの大へんしん【主題】楽しい学級

【内容項目】C（よりよい学校生活，集団生活の充実）

(2) ねらい

相手のことを考えて話すことについて，伝え方を話し合ったり，新聞の投稿について考えたりすることを通して，集団の中でのよりよい行動の仕方を考えることができる。

(3) 本時の手立て

① 問い

どうしたらみんなが気持ちよくクラスで過ごせるかな？

② かかわり

- ・自分の考えをもたせ，班でその考えを交流させる。
- ・新聞の投稿を読み，共通点や新しく気付いたところを伝えあわせる。

新潟日報（2018年11月7日 窓 『おこらないで注意したい』）

③ 振り返り作文

〈想定する振り返り作文〉

- ・僕は今まで，友達に注意するとき，強く言ってしまっていました。注意するのはいいことだけど，注意された人の気持ちまで考えたことはなかったです。だから次からは相手に注意を聞いてもらえるような言い方で注意していきたいです。そして注意するときだけでなく，いつでも優しく遊べたらいいなと思います。

④ 学びの深まった姿

すてきなクラスにするために，自分の気持ちだけでなく，相手の気持ちを考えた行動が大切であることに気付く姿

(4) 授業の実際

導入では，クラスで起こりそうな問題のある場面の絵をいくつか提示し，感想を伝え合わせた。その後，このような場面のようなことがあった時にどう行動するかを問うた。すると，「注意をする。」と多くの子どもが答えた。そこで友達に注意された時の気持ちを想起させるように発問をした。子どもからは，「イラっとした。」「腹が立った。」といった率直な返答が返ってきた。みんなが気持ちよく，正しく過ごせるように注意しているのに，けんかになったり，腹がたったりしている状況を確認して，「どうしたら，みんなが気持ちよくクラスで過ごせるかな。」という問いを立てた。

かかわりの場面では，①自分の考えをノートに書かせ，意見をもたせてから班で交流する，②同学年の子どもが書いた新聞の投稿を読み，共



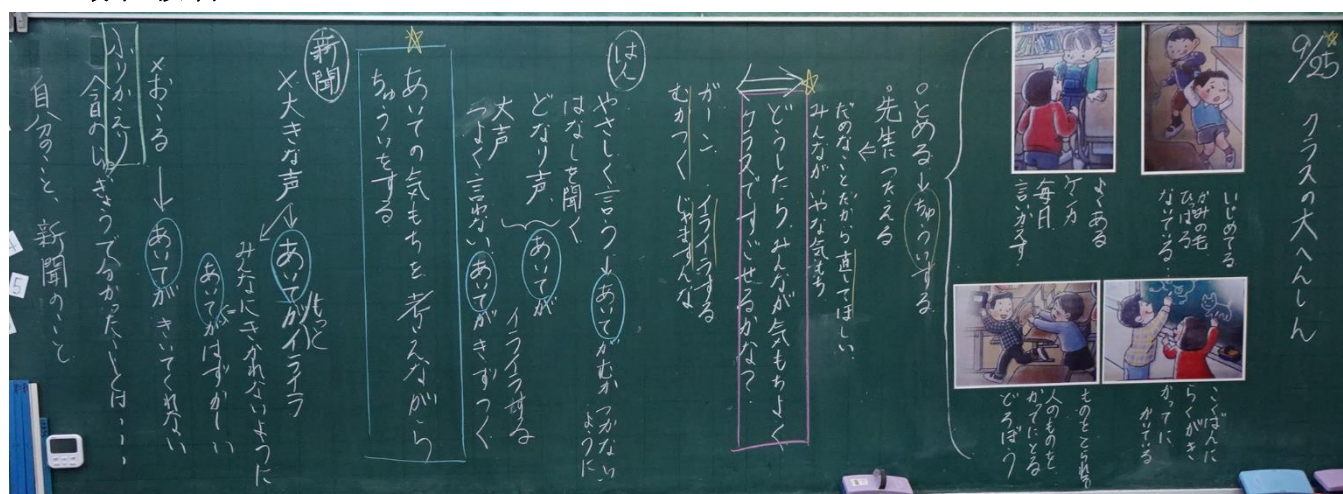
通点や新しく気付いた所を伝え合わせる，を手立てとして行った。①では，「やさしく注意すればいい。」「おこらないで注意できればいいんだよ。」意欲的に話し合い，自分の考えを深めている様子が見られた。班での話し合い後，子どもたちと同学年の子が書いた新聞への投書を読み聞かせした。「自分たちの考えと似ているところや，新たに気付いたところに線を引いて伝えましょう。」と投げかけた。子どもたちは，投書の中から，「大きな声で注意しないは同じ考えだね。」と自分の考えとの共通点に気付いたり，「怒るのはよくないのは，やはり大切なことだね。」と自分の考えを強化したりするような発言も見られた。

振り返りの中には，「自分は，大きな声を出してしまう時がある。」と記述していた。しっかりと自分の姿を見つめ，相手の事を考えようとしている記述であった。

(5) 新聞活用について

本時では，同年代の子どもの投書をかかわりの場面で活用した。投書の内容が本時の学習と合致しており，同年代の子どもが書いた文であるということもあって，興味深く読んでいた。投書の内容が身近でとても良かったので，この投書を授業のメインとして扱い，深く考えさせていてもよかった。

<最終板書>



<実践例 2>

(1) 6年 社会科

単元名 暮らしの中の政治・すべての人が幸せに生きるために

(2) ねらい

「基本的人権の尊重」という憲法の基本理念について，アイヌ民族の人権や文化を守るためにどうしたらいいのかを考えることを通して，その理想の実現には，互いの人権を理解し，守ろうとする一人一人の意識が大切なのだと気付き，自分にできることを考えることができる。

(3) 本時の手立て

① 問い

アイヌ民族の基本的人権が尊重されるには、どうしたらいいのかな。

・朝日小学生新聞(2019年5月27日)『先住民族』アイヌを知ろう」

② かかわり

班で出た意見の中から、最も支持できる方法を、理由を明確にして選ばれる。

③ 振り返り作文

〈想定する振り返り作文〉

- 私はアイヌ民族の人たちがこのような差別を受けていたことを知りませんでした。憲法で決められている基本的人権が認められないのは残念です。一人一人が基本的人権を守ろうとすることが大切なんだとわかりました。私はこれからアイヌ文化について調べ、大切にしたい気持ちをもっていきます。

④ 学びの深まった姿

- ・日本国憲法の理念である「基本的人権」が守られていないという社会の問題に気付く姿
- ・法律があるだけでなく、それを守ろうとする一人一人の意識が大切なのだと考えを変容させる姿

(4) 授業の実際



導入で、アイヌ民族の写真を見せ、アイヌ語弁論大会の動画を見せた。すると、子どもたちが「何語?」「分からない。」という反応があった。今では、あまり聞かなくなった言葉であることを確認し、アイヌ民族について書かれた新聞記事を配布した。分からない言葉を確認しながら、記事を一緒に読み進めていった。記事から、歴史的

経緯や言語以外の文化も奪われたことや、今なお新法によって現状を改善していこうとする動きが世の中にあることを捉えさせた。アイヌの基本的人権や文化が守られていない現状を確認した上で、「アイヌ民族の基本的な人権が尊重されるためには、どうしたらいいのか。」という問いを設定した。

かかわりの場面では、自分の考えをもたせ、班で出し合った後に最も支持できる方法を理由を明確にして選ばせた。「学校でアイヌの言葉や文化を教えてもらう。」「アイヌの人が平等になれるような法律を作る。」「国だけでなく、一人ひとりが尊重し合う社会を作る努力をする。」など、支持できる方法や理由を考える話し合いを通して、その根本にある「基本的人権の尊重」に目を向けることができた。

振り返りでは、次のような記述が見られた。

【A 児】

私は、初めてアイヌ民族の人のことを知りました。これから人権を尊重していくことが大切です。そのためには、差別などが無い社会が必要だと思いました。

【B 児】

ぼくは、アイヌ民族の文化を守り、みんなが幸せに過ごせるようにした方がいいと思いました。そして、アイヌ民族だけでなく、日常でも差別せず、幸せに過ごせるように努力していくべきだと思いました。

かわりを通して、憲法の「基本的人権の尊重」という視点からアイヌ民族が差別されてきたという社会的問題を捉え、考えを深める姿が見られた。

(5) 新聞活用について

新聞が課題解決のための手立てとなっていた。しかし、新聞記事の提示の仕方について、情報量が多かった。一度に与えず、少しずつ出すとより分かりやすかった。また、今回の新聞記事の提示は、学習課題設定後がよかった。

<最終板書>

12/6

すべての人が幸せに生きるために

アイヌ民族

基本的人権が尊重されてない!!

言語・文化がうばわれてしまった差別

① 北海道旧土人保護法 (1899)

② アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律 (1997)

③ アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律 (2019)

アイヌ民族の基本的人権が尊重されるには、どうしたらいいのかな。

学校などで、アイヌの言葉や文化を教える

平等権、自由権を大々的に保障する

先住権を保障する

アイヌの人たちが平等になるような法律をつくる

尊重し合う社会をつくる

努力する (国民みんな)

法律だけでなく、国民ひとりひとりがアイヌ民族の文化を理解することが大切。

くふり返り

学び

気付き

自分だったら、人権を守るために〜するよ

5 成果

1年生から6年生まで全ての学年で新聞を活用した授業を実践することができた。活用が難しいと感じていた低学年でも、記事の内容を精選したり、提示の仕方を工夫したりすれば、十分に活用できることが分かった。また、新聞は、問いを引き出すため、問いを解決するため、考えを深めたり、広げたりするためなど、授業のねらいに応じて、様々な目的で活用できることも分かった。授業研究を通して、さらに有効な活用の仕方を探っていきたい。

授業で新聞をさらに有効に活用するためにも、子どもたちが新聞に親しみ、新聞を読む技能を身に付けていく必要がある。来年度は、日常的に新聞に親しみ、読む技能を高めていく取組を行っていきたい。

(平野 俊郎)